令和元年　第11回大河原町教育委員会定例会会議録

１　招集日時　　令和元年11月27日（水）

２　招集場所　　大河原町役場　委員会室

３　出席委員　　舟山幸枝委員、一盃森広志委員、丹羽宜博委員、古山陽子委員、鈴木洋教育長

４　説明のため出席した者

教育総務課長　佐藤　勝弘、生涯学習課長　八島　良隆、学校教育専門監　池田　尚人

５　開　　会　午後１時30分

６　令和元年第10回教育委員会定例会の承認について

鈴木教育長｜（委員全員に諮って）承認する。

船山委員、丹羽委員　署名。

７　教育長報告

（１）一般事務報告について

報告第22号障害児の就学措置に係る答申について

一盃森委員｜指導体制について心配なところがある。小学校の支援担当者、補助の方の手があって指導ができるので、安定的な体制がとれるように準備が必要ではないか。

鈴木教育長｜来年度の体制について検討している。

舟山委員｜ＫＴＣあおぞら高等学院とはどのような学校か。

池田専門監｜仙台の駅前にある私立学校で、臨床心理士も常駐している学校。

６　議　事

なし

７　その他

（１）教育長報告

大河原小学校川田校長先生が教育功績者表彰受賞・３名の校医、日下先生、河内先生、遠藤先生も教育功績者表彰を受賞。

１　教師としての誇りを持って

ノーベル賞の吉野先生について。昨今の教育はブラックと言われ、暗い話になって

いるが、先生の仕事は価値があることを伝えたい。吉野先生は子供の頃、学校の先生とどんな関わりがあったかというと、4 年生の時、新任の女性の先生が勧めてくれた本によって、どんどん化学が好きになっていた。先生の言動がノーベル化学賞につながった。教師の仕事は子供に与える影響力が大きく価値があるものと伝えてほしい。

2　不登校児童生徒への支援の在り方について

長期欠席している子供や全休している子供がいる。一度、不登校になると長期化する傾向がある。

しかし、ケアハウスの支援により、別室登校が増えている。別室登校になると、登校したことになる。別室登校が 5 割。文科省でも不登校児童生徒の支援の在り方の通知があった。中学校学習指導要領の総則編とほぼ同じ。児童生徒の理解支援シートの具体化。これまでの支援の仕方等を記録し、伝えていく必要がある。大河原町として使用しやすいものを作った。町教育委員会としてどのような支援ができるのか。課題は、基本的生活習慣の定着、学力不振の解消、ソーシャルスキルの定着である。

学習支援のなかで、個別学習支援のソフトを提供。不登校のみならず、特別支援の子や別室登校、家庭から出られない子に有効になるのではないか。

児童生徒理解支援シート大河原版を作成してもらって、支援にあたる。

社会性がないと上手くいかないので、県にはソーシャルスキルの習得のガイドランを作ってほしいと要望している。

3　台風 19 号による被害状況を踏まえて

大河原町の台風 19 号について。大河原町で人的被害はなかったが建物等の被害は結構あった。洪水のときの避難は学校が垂直避難所として最適。校長先生、教頭先生に、午後 3 時から学校に待機、対応してもらい非常に助かった。

丸森支援も、2 名の先生に支援に行ってもらい感謝された。事務所、県教委に管内の支援体制を組織してもらった。

4　校内研修ついて

野口先生からのめあての提示や研究仮説は必要かという問題提起。一般の教員ならめあてをつかませてからが良い。仮説のところは、町内の小学校は研究の視点、中学校は仮説、になっているが内容は似ている。校内研修は、先生方の創意、工夫が存分に授業の中できるようにしてほしい。

研究のまとめ、実践ノートをとっておきたくなるような、まとめにしてほしい。

5　幼保小連携について

これまでもあったが幼稚園や保育所から小学校の入門期での円滑な接続が大きな課題。初等教育資料によると保育所指針や幼稚園教育要領で目指す姿は小学校、中学校教育に直結する。同じような目標を掲げている。小 1 プロブレム。どのように伸ばしていくか。子供たちの力をうまく引き出していくのか。

６その他

宮城県学校体育研究大会、学校体育指導者研修会

小中高の学校体育の研究大会が行われた。子供たちが生き生きと楽しそうに活動するとともに、タブレットを使ってやっている。子供たちは運動を好きになる。大小は仙台大学と連携し業間に外で体を動かすのが楽しくなる取り組みをしている。他校に広めたい。

小中合同避難訓練

初めは何か得るものがあるのか疑問だった。しかし、区長によると防災は自助、公助、共助だが、「近所」が大切とのこと。公園でいも煮会をするなど地道な素晴らしい取り組みをしている。子供会への参加率が低い中で、集まることの意味は、近所の人の顔見知りになる機会で、これだけでも価値があるのでは。

一盃森委員	指導プログラムについて。いろいろな本があるが、体系的なことはない。地道な積み重ねが必要。スクールワーカーと担任、学校と家庭が共有できれば。義務教育課と支援室が連携して率先して、開発してもらうと助かる。要望したい。 合同避難訓練は、学校だけにしておくのはもったいない。保護者や祖父母の参加が少なかった。もったいない。もっとアピールしてやってみたらどうか。
丹 羽 委 員	社交性、社会性は生まれたときから違うのではないか。早期に社会性を身につける訓練が必要な子もいる。専門的な知識があって、その子にあった幼児期の指導があるとよいのではないか。 学校の先生は指導するだけでなく、楽しさ、面白さを伝えることも大切。 小学校の体育の授業での工夫が子供の事故になってしまった。注意が必要。
古 山 委 員	ソーシャルスキルの習得とはどういうことか。 タブレットを持ちいて対話をする体育の授業はどういうものか。
鈴木教育長	体育授業で自分たちが動いている様子ををタブレットで撮影し、みんなで見て、ここが良いね、こうしたほうがいいねと対話しながらよいものにつくりあげていく。大河原小学校、中学校では、日常化してあたりまえのように使用している。
池田専門監	これまでは、先生がビデオで撮影し行っていたが、タブレットでは自分達で撮影し、その場で振り返り、確認ができている。
鈴木教育長	ソーシャルスキルの習得とは、挨拶、くつをそろえる、洋服をたたむ等がしっかり出来るようにさせること。それができないと周りから評価されず、孤立してしまうので、意識して教えていかないといけない。

舟 山 委 員	社会性を身に付けるには、慣れることも必要。性格は変わらないが、時間をかけて、慣れていく。低学年の先生方に、幼稚園などを見てもらう機会などがあったらよいのでは。
鈴木教育長	幼小連絡会。小１の授業を見てもらった、可能であれば、幼稚園を見に行くのも必要か。一緒に学習することは可能か。円滑な接続になるような取り組みができればよい。

７　課長報告

８　次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長｜次回は令和元年 12 月 20 日（金）午後 3 時から定例会を開催する。

９　閉会宣言　午後 16 時 00 分

令和元年 12 月 20 日

署名委員

署名委員